

山口情報芸術センター開館 5周年記念事業:シンポジウム

5周年記念シンポジウム

2008年11月1日(土)–3日(月・祝) 14:00–16:30

会場:山口情報芸術センター [YCAM] 入場無料(申込不要)



アートと情報メディアのさらなる可能性を探る

YCAMの軌跡と展望をテーマとするシンポジウムを開催

情報と文化の交流拠点として開館した山口情報芸術センター[YCAM]は、今年で開館5周年を迎えます。これを記念し、2008年11月1日(土)より3日間、これまでの活動とその成果を紹介するシンポジウムを開催します。

YCAMでこれまで展示された作品とその制作、YCAMが発信するメディア教育から3つのテーマを設定し、専門家やYCAMのスタッフ、アーティストがそれぞれの立場からディスカッションをおこないます。来場者からの意見を取り入れながら、3つのテーマをより深く掘り下げ、YCAMの軌跡を振り返り、アートと情報メディアのさらなる可能性について探っていきたいと考えます。



■ スケジュール

11月1日(土)14:00–16:30

YCAMコミッションワークの軌跡と展望 ～山口発、世界を巡るアート作品～

11月2日(日)14:00–16:30 ※同時通訳あり

メディアアートとニュープロダクション ～プロダクション・コミュニティの出現とその可能性～

11月3日(月・祝)14:00–16:30

発想法を発見する ～アートセンターから発信するもうひとつの教育～

.....

【スピーカー】

阿部初美、伊藤穰一、exonemo、久保田晃弘、
四方幸子、鈴木謙介、津田大介、フィリップ・トロン、
藤本隆行、帆足亜紀、マルティン・カルテンブルネル、
三上晴子

会田大也、阿部一直、福田 幹 (YCAM)

.....

主催:財団法人山口市文化振興財団 後援:山口市、山口市教育委員会 企画制作:山口情報芸術センター[YCAM]

取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は下記までご連絡ください。

お問い合わせ 広報担当:浅原・廣田

〒753-0075 山口県山口市中園町7-7 TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2216

e-mail: information@ycam.jp <http://www.ycam.jp/>



山口情報芸術センター
Yamaguchi Center for Arts and Media

11月1日(土)14:00-16:30

セッション1: YCAMコミッションワークの軌跡と展望 ～山口発、世界を巡るアート作品～

YCAMは、他のどこでも生まれ得なかった作品を「いま・ここで」制作し、紹介していくことにフォーカスした施設です。アーティストとYCAMのスタッフ、YCAM InterLab(制作プロダクション)との共同で制作されたさまざまな作品は、YCAMでの展示後も国内外各地で巡回展示・上演されています。また、作品自体もつねにアップデートされ成長しつづけています。

セッション1では、前半はアーティスト本人による作品の展示経過や各地での反応についての報告、後半はYCAMの5年間の実績を振り返りながら、グローバル社会のなかで地方の文化施設が果たす役割、アートと情報メディアの今後についてディスカッションします。

■モデレータ

福田 幹(YCAM InterLabマネージャー)

■パネリスト

exonemo(アートユニット/2006年「OBJECT B」制作)

藤本隆行(照明家・ディレクター/2007年「true」制作)

三上晴子(アーティスト/2005年「gravicells - 重力と抵抗」制作)

四方幸子(NTTインターコミュニケーション・センター[ICC]シニア・キュレータ、批評家)

帆足亜紀(アートコーディネーター、国際交流基金JENESYS

Programmeコーディネーター)

阿部一直(YCAMキュレータ)

11月2日(日)14:00-16:30

セッション2: メディアアートとニュープロダクション ～プロダクション・コミュニティの出現とその可能性～

オープンソースやwikipediaに代表されるような、特定の企業や組織を越えて多数の人が共作するピアプロダクション、作品の共有と改変から創造性を促すクリエイティブ・コモンズ、個人が自分たちの欲しいものを作り出していくDIYなど、今メディア社会で広がる新しいプロダクションのムーブメントについて考察を行うセッション。それらを育み流通させるコミュニティの可能性と展開について探ります。

また、YCAM InterLabが国内外のアーティストやエンジニアとおこなってきたコラボレーションワークについても紹介し、メディアアートの制作プラットフォームのモデルについても提案します。

■モデレータ

久保田晃弘(アーティスト、多摩美術大学教授)

■パネリスト

伊藤穰一(クリエイティブ・コモンズCEO)

マルティン・カルテンブルネル(アーティスト、reacTable開発者、ボン

ベウ・ファーブラ大学ミュージックテクノロジー・グループ研究員)

フィリップ・トロン(「Make」シニアエディター)

福田 幹(YCAM InterLabマネージャー)(予定)

※同時通訳あり

11月3日(月・祝)14:00-16:30

セッション3: 発想を発見する ～アートセンターから発信するもうひとつの教育～

YCAMでは、従来の美術館教育や学校教育の枠組みにとらわれない新しい形のメディア教育を目指しています。セッション3では、自然環境、社会環境と並列した第三の環境として、「メディア環境」というものを想定し、このメディア環境における造形感覚、時間感覚、オリジナリティと共有の発展的感覚について探求します。

また、ローカリティ(地域性)とメディア環境との関係を、自然や社会を含め、創造的な環境とは何かについて新たな見地から再考察します。

■モデレータ

鈴木謙介(社会学者、TBSラジオ「文化系トークラジオ Life」メインパーソナリティ)

■パネリスト

阿部初美(演出家)

津田大介(IT、音楽ジャーナリスト)

会田大也(YCAM教育普及担当チーフ)

